

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 27, No. 2 神奈川県立生命の星・地球博物館 Jun. 2021



アカウミガメの放流

アカウミガメ *Caretta caretta*
鹿児島県南さつま市 吹上浜
1992年8月16日

おおしま みつはる
大島 光春(学芸員)



※1 鹿児島県のウミガメパンフレット . <http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/umigame/documents/umigamepanhuh22.pdf>
※2 2006. ウミガメ保護ハンドブック環境省自然環境局.

梅雨時はアカウミガメが産卵する季節です。アカウミガメは5～7月に砂浜で産卵し^{※1}、子ガメは45～75日後に孵化^{ふか}します^{※2}。私が初めてアカウミガメの産卵を見たのは、1991年6月の吹上浜でした。そこでは鹿児島大学ウミガメ研究会が産卵・孵化の調査や保護活動を当時から続けています。

写真は、子ガメ放流会のときのものです。はじめにウミガメの生態や甲羅の骨格などについてのレクチャーがあり、いよいよ放流です。砂浜に放たれた子ガメは^{ひれ}鰭をゼンマイ仕掛けのようにぎこちなく動かして、海へ向かって歩きます。野生

生物に触れて“かわいい”と感ずること、生き物を慈しむ機会をつくることは大切な教育活動だと、私は考えていました。

ところが約30年後の現在、子ガメ放流会はほとんど行われません。ウミガメの生態に合わないというのがその理由です^{※2}。孵化から放流会まで待つために孵化してすぐの子ガメが活発な時間帯を逃す上に、本来子ガメが海に入る夜間ではなく昼間に放流されるために捕食されやすくなるそうです。

「自然科学のとびら」を開ける生物観察という教育・普及活動は、見直しが必要になることもあるのです。